令和３（2021）年度　看護学校関係者評価結果

Ⅰ．2021 年度　学校関係者評価諮問委員会

１．学校関係者評価諮問委員

島根県立大学大学院　看護研究科看護栄養学部教授

看護学校非常勤講師・卒業生

浜田市健康福祉部　参事

浜田医療センター　看護部長

２．学校職員

独立行政法人国立病院機構　浜田医療センター附属看護学校

学校長

教育主事

学科調整者

実習担当者

３．開催日：令和３年 12 月 15 日（水）　時間：10：00～12：00

４．評価期間：令和２年４月１日～令和３年３月 31 日

Ⅱ．評価結果

１．評価基準

「４」：大いに達成できている　（大いに成果が見られる）

「３」：達成できている　（成果が見られる）

「２」：あまり達成できていない　（あまり成果が見られていない）

「１」：まったく達成できていない（全く成果が見られていない）

２．結果

１．主体的な学習習慣を促進する学習環境の充実・整備

	2021年度　諮問委員評価					2020年度
評価項目　（運営目標）	A	B	C	D	平均	自己評価
１）学生の「わかる・できる・やってみよう」を支援する授業（講義・実習）の工夫	3	3	4	3	3.25	2.9
２）チューター制を活用した学生個々に合わせた学習支援体制づくり	3	3	3	3	3	2.6
３）学科・実習委員会、学年間、ほか担当グループ間の連携を計画的に行い、教員全体が情報を共有し、組織的・効果的に学校運営をする	3	3	3	3	3	2.9
４）自己学習を支援する教材・教具・図書・情報科学室・実習室ほかハード面を整える	3	3	3	3	3	2.8
５）第3者を交えての学校経営・運営に関する評価に取り組み運営方針を決定する	3	3	3	3	3	3

１）学生の「わかる・出来る・やってみよう」を支援する授業の工夫

教員達は限られた人数の中、授業の改善に向けて意欲的である。看護技術演習で複数の教員が授業や演習に参加し、学生が教員からの助言を少しでも多く受けることが出来るように教員サポートの組織化をされている。この取り組みは、学生のみならず授業を展開している教師の成長につながり高く評価できる。

今後は、日常の中で教員同士がお互いの授業を公開する等実践され、授業のフィードバックになり新人教員の成長にもつながるのではないかと思われるので今後さらに期待している。

老年看護実習では、地域の実態とそれを支える仕組みと看護の役割について考えられるような取り組みをされていることは、看護学校が存在し、地域に貢献できる意義の一つと言えるのではないかと思われる。中でも「民泊体験」は、学生が地域に入り込み自ら課題発見学習、問題解決学習や主体性を引き出すことが出来る取り組みで高く評価できる。

コロナ禍においてもこれまでのような対面授業や行事が制限される中でも、授業の工夫がなされ、学年間の関わりを促す機会が作られており、学生の学習活動を停滞させることなく支援されている。遠隔講義ではZoomでグループディスカッションを行い、意見交換をホワイトボードに明示して見える化を図ることができ、この学習支援の工夫は学生にも好評のようで、さらなるアイデアを期待したい。また、コロナ禍で様々な行事が中止される中でも縦わり教育を取り入れ、学年を超えて学びあうなど工夫がされていることは良い取り組みと感じた。学校の中での学年を超えた仲間づくりの機会ともなっているのではないか。

学生による学習評価は講師とも共有し、講義がより効果的なものとなるように活かして頂きたい。

２）チューター制を活用した学生個々に合わせた学習支援づくり

チューター制を導入されて２年目となる。学生から「学校職員は、学生の関心事に耳を傾け近づきやすい存在」に高い評価が得られており、こうした指導体制も含めて日頃のかかわりにより学生からよい評価が得られていると考える。ただし、看護過程の個別指導や国家試験の指導にチューター制を活用したとあり、科目担当や担任とチューターについて、ねらいや役割が見えにくい。学習支援に有効な手段と思われるが、より効果が生じるよう、あり方をさらに研究されたい。

チューター制については改善の余地があると評価されているが、学習初期から難解な学習内容に向けて乗り越えられるような支援やメンタルな部分の支援について意義のある取り組みであり今後の成果を期待したい。

３）学科・実習委員会、学年間、ほか担当グループ間の連携を計画的に行い、教員全体が情報を共有し、組織的・効果的に学校運営をする

学科委員会、実習委員会をもち、学校の方針や情報が共有されている。カリキュラム改正について他校との連携を持ち多角的な視点からカリキュラムの検討が進められたことはメリットが大きいと考える。

学校運営や授業改善のための各種会議は必要と思われるが、日々の教育活動の中で、教員が学生指導や授業の改善に向けた取り組みが出来る時間を捻出できるように改善を期待したい。

これまでの委員会活動の実績に上乗せして活用できるよう会議内容を精選されることを期待したい。今年度はカリキュラム改正のための会議も多いとのこと、新たな対応の模索のため、会議等の増加はやむを得ないと思う。課題点を確認されながら改善に努められていることを評価し、次年度に期待したい。

４）自己学習を支援する教材・教具・図書・情報科学室・実習室ほかハード面を整える

自己学習を支援する環境としてWi-Fi環境の整備は学生にとって期待が高いと思われるので速やかに進むとよい。

５）第３者を交えての学校経営・運営に関する評価に取り組み運営方針を決定する

自己点検評価、学生による評価などが丁寧に実施され、ＰＤＣＡサイクルが回されている。

２．機構および地域へ貢献できる看護職員の育成

	2021年度　諮問委員評価					2020年度
評価項目　（運営目標）	A	B	C	4	平均	自己評価
１）浜田および県内の地域医療・看護に興味関心が持てるような学習支援	4	4	4	3	3.75	3.1
２）看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質向上をはかる。	3	3	4	3	3.25	2.9
３）入学時1年次から一貫した国家試験対策	2	3	3	3	2.75	2.9
４）3年間で順調に単位を修得できる学生の育成	3	3	3	3	3	3
５）浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する。	4	3	4	4	3.75	3.4

１）浜田および県内の地域医療・看護に興味関心が持てるような学習支援

2018 年に「へき地での地域体験を通した弥栄診療所の見学」研修、2019 年「へき地の地域包括ケアシステムについて知り、考えるワークショップ」学校祭企画が「地域包括ケアシステムの中で高齢者の地域の暮らしを知る」ことを目的とした実習へと発展し、体験を通して地域の課題を理解し、地域医療に貢献できる看護師の育成につなげようとする取り組みを高く評価する。まずは、継続していけるよう関係機関や住民との連携を図っていただきたい。

地域住民の生活を知るための民泊実習や中山間地域の医療を知るための診療所訪問など、他の学校には見られない魅力的な教育内容が検討でき実践できている点が高く評価できる。地域体験授業は、各学年ともに効果的な学びに繋がっているのではないかと感じる。多職種とともに事例検討を行うことは、各専門職の多様性や、地域医療に興味関心を持つ機会となっているのではないかと考える。これは、新カリキュラムの「地域・在宅看護論」に継続されるとのことで、学生の学習意欲の向上が期待できる。

地域体験など学校外とのかかわりを持つ機会の確保については、学生にだけでなく、地域定着にもつながるものとして、地域にとっても有益なことであり、工夫し継続されることに感謝する。また、地元への定着促進は、自治体が「学生にとって魅力的な地域」となるよう努め、発信することが必要。自治体や地元団体等とのさらなる連携を重ねられたい。

２）看護部、実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質向上を図る

日々の実習指導の中で病棟師長や実習指導者と情報共有を図っておられることは、学生の学習支援のみならず、指導者の成長にもつながる大切な時間の共有である。「看護を語ろう会」や「各実習のふり返りに担当指導者が参画する」という取り組みの継続は、学生の看護に対する興味関心や、指導者自身の成長にもつながる魅力的な取り組みである。

卒業生や実習施設の看護師との看護観やケーススタディの発表等をとおして、看護師の看護に対する思いに触れるなど、学生にとって機構や浜田医療センターへの愛着を促進する機会になっており、就職につながっていると考える。

３）入学時１年次から一貫した国家試験対策

チューター制は現時点で多いに改善の余地があり、今年度はチューター制を 3 学年にわたってシステム化する事を目標とされている。現状の課題を見直され、早期から学習支援が出来るよう期待している。

最終学年において、実習が始まってから休学・退学者が出ていることが気になる。浜田医療センターの看護部・実習指導者との交流をされているので、早期に介入してサポートできるとよいと思う。

４）浜田医療センターをはじめとする国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成する

国立病院機構および県内就職率はそれぞれの目標値をほぼ維持できており、一定の評価は得られている。

今後存続する看護学校として浜田医療センター、他の国立病院機構や県内への就職に貢献できる看護職の育成は重要課題である。これは、今までの取り組みの見直しや継続等がさらに必要。

３．学ぶ意欲のある学生の確保

	2021年度　諮問委員評価					2020年度
評価項目　（運営目標）	A	B	C	D	平均	自己評価
１）受験生の確保　　目標：受験者72名以上（H29年度91名と比較20%未満）	3	3	3	3	3	3
２）高等学校ほか効果的なＰＲ活動の実施	3	3	4	3	3.25	3
３）ホームページ、広報誌による情報発信の充実	3	3	4	3	3.25	3.1
４）県内ニーズ、地域の18歳人口、浜田医療センターの看護師募集数に見合った妥当な入学定員数の評価	3	3	3	3	3	3

１）受験生の確保

様々な機会を通しての学生募集が行われており、またコロナ禍という影響もあり、県内志向が高まっていることで受験生の確保も目標値を上回ることはできたことは取り組みを評価できると考える。

２）高等学校ほか効果的なＰＲ活動、３）ホームページ、広報誌による情報発信の充実

看護系の４年制大学が増えている社会の中で、専門学校として入学生の確保に向けて様々な媒体を用いて工夫されている。ホームページや広報誌（スマイルハート４回、ハマカンニュース４回）の発行は精力的に取り組まれており、地域や保護者への情報発信が大変丁寧にされている。学生の学びを地域の新聞へ投稿（授業担当教員と連携して）も高く評価できる。新たに報道を活用した取り組みも行い、情報発信の機会拡大に努められている。民泊実習など地域に密着した学習が展開されていて学生からも好評である。業務負担とのバランスは難しい中、取り組みに工夫が感じられる。広報誌やホームページ、学校案内等でさらにPRされるとよい。広報活動には、行政など関係機関との連携や活用もさらに図られたい。

地域の行政機関との連携で、浜田市のＩターンＵターン事業に進学・就職を組み込むアイデアは評価できる。現実には該当する人材は少ないようであるが継続していくことに意義がある。

４）県内ニーズ、地域の18歳人口、浜田医療センターの看護師募集数に見合った妥当な入学定員の評価

少子化が進み高校生自体の全体数が減少する中でも県内では看護系への志望者は一定である。入試制度や社会人枠の拡大などについて様々な機会を活かして積極的なＰＲが必要と思う。

４．教員の質の向上と職員がやりがいをもって働けるワークライフバランスの促進

	2021年度　諮問委員評価					2020年度
評価項目　（運営目標）	A	B	C	D	平均	自己評価
１）看護教育の質向上のために研究活動、自己研鑽がしやすい環境づくり	3	3	3	3	3	2.8
２）研究成果・業績	3	3	3	3	3	2.3
３）働きやすい職場環境づくり	2	3	3	3	2.75	2.9

１）看護教員の質向上のための研究活動、自己研鑽がしやすい環境を作る

教員の資質向上に向けて研究活動や自己研鑽ができる環境づくりを積極的に実施されている。

学会・研修会のスタイルが変更となり、移動の時間が学習の時間へ切り替わり、新しい環境になっているのではないかと感じる。労務環境も勤務線表の見直し等も行われ、効果がでてきているのではないかと感じる。

２）研究成果・業績

限られた教員数、業務時間の中、さらにコロナ禍の状況を踏まえて、教員個々が自己研鑽できる最低限のシステムを作っておられることは評価できる。

また、経験年数の少ない教員が研究に取り組みやすいシステム作りも課題と認識されている。

３）働きやすい職場環境づくり

問題を認識し、改善に向けて努力が継続されている点は評価できる。また、マニュアルの見直し整備は必要であるが、新人教員等の育成は、日頃の教員間のコミュニケーションの中から学び取ることも多くあると思われる。日々の経験を積み重ねながら、また先達の姿勢や薫陶を受けながら、若い教員達が自ら成長していけるように、気さくに意見交換が出来る職場環境を今後も継続していかれることを期待したい。

「働きやすい環境」「働きがいのある職場」は、お互いの尊敬と信頼、日頃からの対話でチームの連携、そして学生に対する信頼だと思っている。「働きやすい環境」作りは教員の「働きがい」にもつながりやりがいを促進する。現在、年休、時間年休の積極的取得、定時退庁日の設定など出来ることから取り組んでいることは評価できる。コロナ禍において考慮すべき事項が増加する中で、超過勤務時間を減少できたことに、取り組みの成果が感じられる。今後の取り組みも、具体的に提示されているので成果に期待したい。

授業準備のための時間が取れていないことについては課題である。業務の効率化をはかる必要がある。資質向上、環境づくりに工夫、努力されていることがうかがえる。難しいことだが、職員の負担の軽減を図りつつ、丁寧な対応を継続されたい。